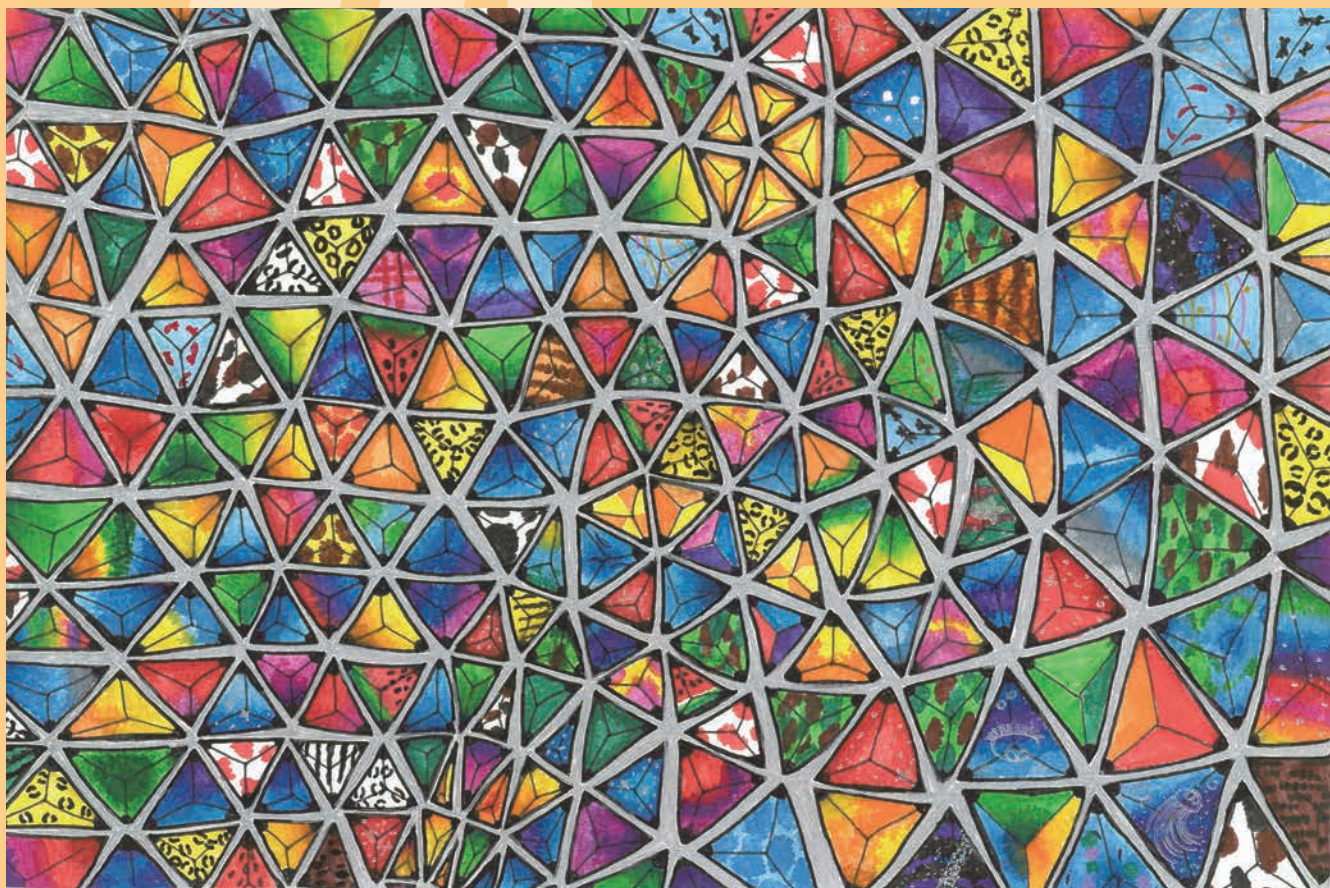


令和元年度

島根
教弘
会報
vol.2



「トライアングル」 出雲市立第三中学校2年 堀川花音さん

公益財団法人 日本教育公務員弘済会島根支部
株式会社 島 根 教 弘

すべての人の安心支援に向けて ～ 幼少期から老いゆく大人まで ～

公益財団法人 日本教育公務員弘済会島根支部

副支部長 永田千秋



日教弘島根支部の副支部長に就いて3年目になりました。その間、益田教育事務所管内の小・中学校、高等学校、特別支援学校の訪問では、温かく迎えてくださり元気もらっています。学校に入った時、児童生徒の元気な声を聞くだけで癒されます。また、教職員の皆さんの懐かしい顔に接し、校長先生とは教え子の話でしばらく花が咲きます。「最終受益者は子どもたちである」という基本理念に基づいて日教弘の事業を行っていることも、徐々にではありますが、理解をいただいているように思います。児童生徒や教職員の皆さんの笑顔を見ると、ささやかな幸せを感じています。

我が家では2人の孫がやって来て、1カ月半一緒に生活しました。2歳3カ月になる孫が、この1カ月でどんどん言葉を出すようになりました。いつになったら言葉が出るのか、どのように言葉を使うようになるのかと、興味津々でした。我が子の時は、日々の生活に追われ全然覚えていないのです。初めは簡単な単語から言い出し、その数もどんどん増えるのです。次は形容詞、それから助詞が加わり、1単語から2単語になっています。そして、日ごとに会話が成立するようになっていくのです。この時期が一番、脳に色々な事が入る時のようです。この時期を逃さず、この能力を伸ばすための刺激を与えることが大切だと思いますが、残念ながら今の私には、孫の言葉に肯き声をかけて見守るしかありません。しかし孫は、家族が話す言葉を自然に覚えて、その場に合う言葉を話すようになっていくのです。あの可愛い手の5本の指も、初めは自分の意志で動かすことが出来ません。2本の指を立てて、2歳を表現させるのに4日かかりました。今では両手で2歳を表現できます。このように、小さな子どもは日々驚くほどに成長していることに、人間の不思議さを感じます。

一方、私は益田市の法人後見支援員第1号として3人の高齢者の支援をしています。長い間の人生の後に、今の生活に不自由を感じておられる方です。加齢による体の衰えで、昨年いや1カ月前までは出来ていたことが出来なくなっています。わが身も、年々体の衰えを感じています。仕方のないことですが、人の人生について、考えさせられています。

あの孫の発達する体と、年老いて衰弱する体。どちらも人間です。人間にとっての一日一日の時間の凄さを、つくづく感じます。子どもは成長へ、大人は衰えに変わっていくのです。高齢の人には、歩んだ人生の重さとプライドがあります。子どもも大人もすべての人は、自分の存在を認めてもらい、大切にされることが成長につながり、老いを安らかに幸せに生きることになるのだと思います。

日教弘では、幼少期から人生の終わりまで関わりがあります。幼・小・中・高の子ども時代は、明日を担う子どもたちのための、教育振興事業。大人と高齢の時代は、我が身の健康と家族のための、福祉事業と共済事業。日教弘の事業を通して、すべての人の安心と子どもたちの成長支援のために、お手伝いが出来れば幸いです。

令和元年度

教育実践研究論文ご応募ありがとうございました

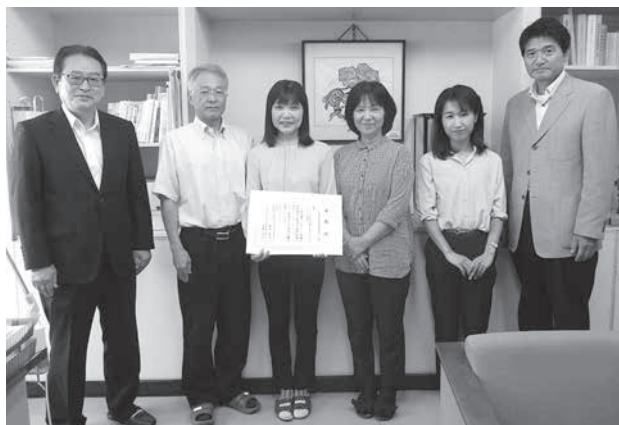
これまでの募集時期を変更し、令和元年度教育実践研究論文を平成31年1月8日～3月31日に募集したところ、学校部門（教育研究団体を含む）に29編、個人部門（研究グループを含む）に9編の応募がありました。

5月から8月にかけて、第一次審査会（審査委員8名）、第二次審査会（審査委員9名）をそれぞれ2回実施し、「優秀」「特選」「入選」「佳作」の各賞および令和元年度日教弘教育賞推薦論文（学校部門から2編）を決定しました。作品の応募状況は以下に、審査結果、審査所感については次頁以降に掲載しています。



優秀（学校部門）表彰
於 奥出雲町立横田中学校

「佳作」以上の作品には助成金を贈りました。加えて、「入選」以上の作品には賞金を、「特選」以上の作品には賞状を添えて業績を称え表彰しました。なお、「優秀」と「特選」に選ばれた作品は、『島根の教育研究と実践』として令和2年3月に発行し、各園・学校及び教育機関に配付することとしています。



特選（個人部門）表彰 雲南市養護教諭部会
於 雲南市立木次中学校

1. 令和元年度応募状況

(1) 部門別

学校部門(教育研究団体を含む)	29編
個人部門(研究グループを含む)	9編

(2) 教科・領域別

教科 (13)	国語、社会、算数・数学、理科、音楽、外国語	5	1	3	2	1	1						
領域等 (25)	道徳、外国語活動、総合学習、学習指導、へき地・小規模校教育、特別支援教育、人権・同和教育、図書館教育、幼稚園教育、健康教育、食育、キャリア教育	1	2	2	4	1	3	1	1	4	3	1	2

(3) 地域・校種別

	松江	安来	雲南	仁多	飯石	出雲	大田	江津	邑智	浜田	益田	鹿足	島後	島前	計
幼	1					3									4
小	2	1	1	1		6	4	3	1	1	2	1	1		24
中		1	1	1		1	2		1			2			9
高															0
特	1														1
計	4	2	2	2	0	10	6	3	2	1	2	3	1	0	38

お知らせ

令和2年度も教育実践研究論文を募集します。募集期間は令和2年1月8日（水）～3月31日（火）を予定しており、教職員の皆様に応募しやすい時期としています。各校でまとめられた令和元年度の教育実践の成果を是非お寄せください。詳しい要項は、12月中旬までにホームページに掲載します。

2. 令和元年度教育実践研究論文一覧

【学校部門(教育研究団体を含む)】

支部名	学校名・申請代表者氏名	教科領域等	研究主題等	評価
出雲	出雲市立北陽小学校 松本 泰治 (38名)	総合学習	ふるさとを愛し、自ら学び続ける意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる北陽っ子の育成 ～夢の現実に向けた単元構想と、協働・対話による解決～	
益田	益田市立高津小学校 大橋 大 (40名)	キャリア教育	児童が生活や学習に喜びを感じ、主体的に取組む姿を目指して ～地域の方との学びの中で学校・地域を誇りに思う意識の醸成～	
出雲	出雲市立塩津小学校 井上 睦子 (5名)	へき地、小規模校教育	自ら学び、表現し、よりよい姿を追求する子どもの育成 ～極小規模校における算数科の一人学びと相互交流のあり方を求めて～	特選
出雲	出雲市立荏原小学校 須田 英典 (24名)	学習指導	子供の「考える」を支える道具を手渡す学習指導のあり方 ～「思考スキル」の育成とシンキングツールの活用に関する一考察～	優秀
隠岐	隠岐の島町立都万小学校 齋藤 尚文 (16名)	道徳教育	やさしく、たくましい都万の子の育成 ～都万地区教育振興会・家庭・地域との連携を通して～	
出雲	出雲市立今市幼稚園 今岡 篤子 (17名)	幼稚園教育	自分の思いや考えを表しながら遊びを続けていく幼児の育成(一年次) ～“みつけた やってみよう おもしろい”に視点をあてた教師の援助のあり方～	
邑智	邑南町立阿須那小学校 細川 寿俊 (11名)	算数・複式教育	楽しさやよさを感じ、主体的に学び、高め合う児童の育成 ～算数科を中心に「主体的・対話的で深い学び」を視点にした授業の改善を通して～	
仁多	奥出雲町立横田中学校 勝部 克己 (21名)	人権・同和教育	認め合い、高め合い、主体的に行動できる生徒の育成 ～自己有用感の育成をめざした取組を通して～	優秀
出雲	出雲市立出東小学校 松浦 和之 (17名)	健康教育	学習に向かうことができる体づくり ～家庭及び学校間の連携を通じた「体幹を鍛える」取組～	
出雲	出雲市立出東幼稚園 石原 順 (7名)	幼稚園教育	思いを伝え合いながら生き生きと生活する幼児の育成	優秀
松江	松江市立城北小学校 金山 美幸 (33名)	音楽科	主体的に聴き学び合い確かな学びをつくる子どもの育成 ～音楽科とそれを支える取組をとおして～	
仁多	奥出雲町立三沢小学校 持田 健司 (13名)	国語	主体的に学び共に高め合う三沢っ子の育成(3年次) ～対話を通して考えを深める授業づくり～	
安来	安来市立井尻小学校 高橋 和弘 (13名)	図書館教育	相手意識をもち、自分の考えや思いを伝え合う力の育成 ～学校図書館活動教育を通して育てる表現力～	
安来	安来市立伯太中学校 秦 誠司 (14名)	学習指導	主体性をもって自分の人生を切り拓こうとする生徒の育成 ～学力の定着とつながり力を高める集団づくりの取り組みを通して～	
邑智	邑南町立阿須那中学校 飯島 仁 (13名)	学習指導	生徒の動機づけに合わせた学び合い学習授業実践 ～動機づけプランニングを用いて～	
大田	大田市立志学小学校 山崎 智則 (10名)	算数	主体的、対話的で深い学びにつながる算数科の授業づくり ～複式学級でのガイド学習を中心とした取組～	
江津	江津市立渡津小学校 佐田尾 志おり (15名)	国語	「話す・聞く・話し合う力」の育成 ～主体的・対話的で深い学びの姿を目指した国語科の授業改善を中心に～	
雲南	雲南市立鍋山小学校 別所 久美子 (9名)	国語	『伝え合う』ことを通して、自分の考えをより確かにし豊かに表現できる子どもの育成	
鹿足	吉賀町立柿木小学校 寺戸 和泉 (12名)	特別支援教育	夢を実現する基盤の力を！柿木小・柿木中ともにのびようプロジェクト ～特別支援教育・人権教育を教育活動の基盤に、子どもを中心に据えた取組を～	

支部名	学校名・申請代表者氏名	教科領域等	研究主題等	評価
鹿足	吉賀町立柿木中学校 河野洋司 (11名)	キャリア教育	小・中・地域と取り組む防災教育 ～防災を視点とした「柿木中版サクラマプロジェクト」 の構築～	
大田	大田市立高山小学校 千原一弘 (13名)	国語	高山っ子の伝え合う力を高める ～国語科「話すこと・聞くこと」の実践から～	特選
浜田	浜田市立雲城小学校 佐々木伸 (16名)	国語	読む力を高め、自分の考えを表現する児童の育成 ～国語科の学習を通して～	
大田	大田市立志学中学校 武田寿博 (9名)	総合学習	志学中学校の「SST(志学・最高[再考・再興]・タイム) の取組 ～「総合的な学習の時間」の取組を中心に～	
大田	大田市立第二中学校 上田直樹 (25名)	学習指導	豊かな心を持ち、自ら学ぶ生徒の育成 ～生徒同士の関わり合いのある学習を通して～	特選
出雲	出雲市立多伎小学校 西村孝司 (12名)	外国語活動	認め合い、支え合う仲間づくり(2年次) ～コミュニケーションを図ることの楽しさを実感できる 外国語活動の授業づくりを通して～	
出雲	出雲市立湖陵幼稚園 柘植和宏 (12名)	幼稚園教育	心を体を動かしながら意欲的に遊ぶ子どもの育成 ～子供と共に遊びを創り出すための教師の役割～	特選
益田	益田市立吉田小学校 領家芳明 (41名)	算数	「かわり」をとおして考えることを楽しむ授業づくり(3年次) ～算数を活用して問題を粘り強く解決しようとする学習集 団をめざして～	優秀
松江	松江市立出雲郷幼稚園 井上晴美 (13名)	幼稚園教育	身近な自然と触れ合い、主体的に遊びや生活を創り出す幼児 の育成 ～園庭やうぐいす山、その周辺でも活動を通して～	
大田	大田市立朝波小学校 菅本至洋 (14名)	理科	なぜ・ふしぎを楽しむ子どもの育成(2年次)	

【個人部門(研究グループを含む)】

支部名	学校名・申請者氏名	教科領域等	研究主題等	評価
松江	島根県立松江養護学校中学部 曾田慎一郎 (6名)	特別支援教育	働く力の育成をめざして ～作業学習を通して～	
雲南	雲南市養護教諭部会 藤原靖子 (22名)	健康教育	よりよい生活習慣を身に付ける子どもの育成 ～質のよい睡眠の確保とメディアコントロールを通して～	特選
大田	大田市教育研究会2班養護部会 矢田悦夫 (7名)	健康教育	健康的な生活習慣の育成をめざして ～大田二中校区6校が連携した取組をとおして～	
江津	江津市立郷田小学校 大野優子 (1名)	食育	児童の実態に応じた栄養管理の在り方 ～自分をみつめ自己管理ができる児童の育成をめざして～	
江津	江津市立郷田小学校 山内優志 (1名)	外国語	英語でコミュニケーションをとる意欲を向上させる学習過程 の工夫 ～Small Talkの充実や家庭と連携した学習を通して～	
鹿足	吉賀町立六日市中学校 山本悦夫 (1名)	社会	1945年8月で終わらない平和についての学び ～2018年11月の現在地から問う核兵器～	
出雲	出雲市立高浜小学校 河原史博 (1名)	外国語活動	主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～移行期1年目の5年生外国語活動「話すこと」の指導を 中心に～	
松江	松江市立鹿島東小学校 鷗鶴健 (1名)	理科	科学的思考力・表現力を育成する理科学習の在り方 ～地域の自然をいかした大地学習の実践を通して～	特選
出雲	出雲市立斐川東中学校 山岡晴夫 (1名)	特別支援教育	校内の人的資源と場を生かした特別支援学級のあり方 ～人、場所、学習の糸を繋ぎ続ける～	

3. 審査結果 [評価段階別一覧表]

部門・評価	優 秀	特 選	入 選	佳 作	無評価	合 計
学校部門	4	4	14	7	0	29
個人部門	0	2	2	5	0	9

<参考> 令和元年度の助成金及び賞金の額

		助 成 金		賞 金			
		優秀～佳作		優 秀	特 選	入 選	佳 作
学 校 (団体)	21人以上	7万円		5万円	3万円	1万円	無し
	11～20人	6万円		5万円	3万円	1万円	無し
	6～10人	5万円		5万円	3万円	1万円	無し
	5人以下	3万円		5万円	3万円	1万円	無し
個 人 (グループ)	6人以上	5万円		5万円	3万円	1万円	無し
	5人以下	3万円		5万円	3万円	1万円	無し
	1人	1万円		5万円	3万円	1万円	無し

(注)この額は、毎年度幹事会において決定されます。

4. 審査委員 (敬称略)

(1) 一次審査委員

審査委員長	梶 谷 光 弘	元出雲市立斐川西中学校長
審 査 委 員	杉 原 充知恵	元松江市立古志原幼稚園長
	高 橋 恒 夫	元松江市立乃木小学校長
	塩 田 律 子	元松江市立宍道小学校長
	石 原 順	元出雲市立中部小学校長
	驛 田 省 吾	元邑南町立瑞穂中学校長
	岩 井 元 康	元島根県立三刀屋高等学校長
	遠 藤 優	元島根県立浜田養護学校長

(2) 二次審査委員

審査委員長	新 田 英 夫	島根県教育委員会教育長
副審査委員長	佐 藤 睦 也	島根県教育庁教育監
審 査 委 員	青 木 規 子	島根県国公立幼稚園・こども園長会長 (松江市立出雲郷幼稚園)
	奥 村 忠 孝	島根県小学校長会長 (松江市立内中原小学校)
	池 田 宗 市	島根県中学校長会長 (松江市立第三中学校)
	常 松 徹	島根県公立高等学校長協会会長 (島根県立松江北高等学校)
	浅 野 博 行	島根県特別支援学校長会長 (島根県立松江清心養護学校)
	伊 達 昌 史	島根県教育研究会会長 (松江市立乃木小学校)
	大 森 俊 也	(公財)日教弘島根支部運営委員 (飯南町立赤来中学校)

5. 審査委員会の審査所感

(1) 研究に対する取組の姿勢等について

- ・今年度は、平成30年度分と平成31年度 (令和元年度) 分の2回の募集を行うこととなった。学校の多忙化が言われる中で、平成31年度分 (令和元年度分) についても、教職員が一丸となって取り組んで論文にまとめられたことに、その姿勢と意欲に敬意を表したい。
- ・継続した研究には質の高まりが感じられた論文があった。一方では、前年度の反省や課題を踏まえ、

今年度新たに加えた視点や実践を明確にし、研究内容の積み上げが感じられる取組についてまとめる必要がある論文もあった。この点について留意しながら研究の深まりを期待したい。

- ・自校の教育課題や子どもの実態把握に努め、研究主題や研究仮説を設定し、その課題解決に努めようとした研究が増えた。学習指導要領を踏まえた論文も増えた。研究を進めるに当たって、指導を受けた講師やその著書を参考にするのは大切なことである。しかし、論述の中で使用されている用語について、一般化されていない言葉については、読み手に分かるように解説を加えるなどについて留意することが必要である。
- ・応募された論文を学校規模別にみると大規模校の応募が少なかった。小規模校は、共通理解を図る上でもまとまりやすさがあるだろうが、一体となって取り組まれたことに敬意を表したい。今後、大規模校の応募が増えることを期待したい。
- ・個人部門で、前年度に続いて応募された論文があった。論文をまとめるに当たって、教師の思いに偏ることなく、学習指導要領や単元構想の位置づけなどについても明確にした実践としてまとめることが大切である。

(2) 研究・実践の内容・分野、方法等について

- ・地域教材を取り上げた論文は、学校と地域が連携して子どもを育むという視点で効果がある。しかし、研究論文としてまとめるに当たり、体験活動に終始したまとめにならぬよう留意する必要がある。研究主題と体験活動の関わりや体験と学びとの関連、子ども自身の関わり方等についても論述することが大切である。
- ・算数科の研究で、昨年度からの継続研究があったが、昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、研究の目的を明らかにした取組は研究の深まりが感じられた。授業の成果と課題の精選等のまとめ方は、他校の参考になるものである。
- ・子どもの「考える力」を育てるための一助として「思考スキル」を育てる研究は、一つの方策として他校の参考になる取組で、今後の研究の深まりを期待したい。
- ・教育課題を踏まえた研究主題、研究目的が定められているが、研究内容が多すぎるため、まとめとして深まりに欠ける論文がある。研究主題に基づいた研究内容を絞ることが必要である。例えば、次に取り組みたい研究内容については、継続研究として次年度の論文にまとめることも一方策である。
- ・応募論文の中で、仮説が3～4も設定されている論文があった。しかし、実践の中では仮説の一部しか記述されていない論文となり、まとめも不十分な論文となっていることが惜しまれた。仮説を焦点化することも必要である。
- ・研究論文としてまとめる場合には、研究構想に検証計画・方法を明記する必要がある。仮説－検証の論文形式となっても、検証計画まで意識して実践をまとめると説得力のある論文となる。
- ・外国語の導入や教科として道徳など、新学習指導要領に基づいた指導が重要な課題となっている。今後、各教科等の指導方法に関する研究の広がりや深まりを期待したい。

(3) まとめ方・記述の仕方等について

- ・研究の成果やまとめの記述で、「成果があった」「有効であった」という教師の主観による記述だけの論文があった。子どもの実態の分析や変容の様子は、具体的、客観的なデータ（発言・ノートの記述・観察等）に基づいた分析をし、その結果を記述することが必要である。
- ・論文のまとめ方について、研究主題や仮説に立ち返り、それらの達成に関わる評価やまとめをすることが必要である。
- ・文字数や行数等について様式が守られていない論文があった。応募に当たって、募集要項を熟読し、定められた約束を守ることが必要である。
- ・執筆者や自校でしか通じない用語の使用や表現をしている論文があった。使用する場合には、用語の定義を明確にしておくことが必要である。
- ・図や写真を掲載する際に小さすぎて読み取りにくい論文がある。使用する意図や論述する上での効果などを吟味することが大切である。
- ・図表や写真が1ページを超えるような論文があったが、4ページ以内でまとめる際の構成等を考慮することが必要である。

(公財)日教弘島根支部は 島根の子どもたち・教職員の皆様を応援しています

(1) 令和元年度奨学事業の給付者・貸与者を決定しました。

令和元年度給付奨学生(高校生等対象)を募集したところ49名の応募があり、選考の結果49名全員を給付奨学生として決定しました。一人15万円、総額735万円(予算660万円)を給付しました。

また、令和元年度貸与奨学生(大学生等対象)を募集したところ29名の応募があり、選考の結果29名全員を貸与奨学生として、総額2,375万円を貸与することに決定しました。

奨学生の皆さんが、学業をはじめ様々な活動に意欲的に取り組み、夢に向かって前進されることを期待しています。

(2) 令和元年度教育研究助成事業(奨励金・へき地学校教育支援)、教育文化事業(助成金給付、学校教育助成)の助成対象を決定しました。

令和元年度 奨励金給付団体一覧

No.	給付団体名	研究・実践内容	給付額
1	島根県立松江農林高等学校	全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会令和元年度島根大会	30万円
2	島根県公立小中学校教頭会	中国地区公立学校教頭会研究大会	40万円
3	全国英語科・国際科研究協議会 島根大会実行委員会	全国英語科・国際科高等学校長会秋季大会・研究協議会	30万円
4	中国教育オーディオロジー研究協議会	夏季研修会	20万円
5	島根県学校事務職員制度研究会	第43回全国研究大会島根大会	10万円
6	島根県小中学校理科教育研究会	第21回中国地区小学校理科教育研究大会	30万円

令和元年度 へき地学校教育支援助成学校一覧

No.	給付学校名	実施する事業名	給付額	No.	給付学校名	実施する事業名	給付額
1	海士町立 福井小学校	福井小学校区体育大会 校区の児童生徒・保護者・地域住民の連帯感を深める	8万円	13	吉賀町立 柿木小学校	「保健集会～とれとれ野菜でバランスアップ～」:食についての意識を高め、健康づくりを推進	5万円
2	西ノ島町立 西ノ島小学校	パワーアップ&ハートアップ遊びや運動を通して友達と関わり豊かな心を育む	8万円	14	奥出雲町立 馬木小学校	「体力パワーアップ事業」体力づくりの活動に取り組み、体力と技能の向上を目指す	5万円
3	隠岐の島町立 都万中学校	新学習指導要領の完全実施を見据えた校内研究:特別の教科道徳に焦点を当てて	8万円	15	飯南町立 来島小学校	来島小学校体力向上プロジェクト事業:教科体育と遊びを通して、体力と運動意欲を高める	5万円
4	隠岐の島町立 西郷南中学校	生徒の表現力を育むICT整備事業:探求的な活動における表現力を育む学習指導	8万円	16	大田市立 北三瓶小学校	「北三瓶スポーツの集い」事業:小・中学生や保護者・地域の方との集団スポーツ体験を増やす	5万円
5	浜田市立 弥栄小学校	プログラミング教育推進事業:プログラミング的思考力を伸ばし活用する能力を育成する	8万円	17	大田市立 高山小学校	高山っ子元気アッププロジェクト:冬季でも運動ができるようにし、体力向上と運動意欲を高める	5万円
6	益田市立 匹見小学校	へき地小規模校バスケットボール交流会(4校)	8万円	18	邑南町立 矢上小学校	「生活科・総合的な学習の時間の授業づくり」研修会:子どもが本気で探求する授業づくり	5万円
7	浜田市立 波佐小学校	「波佐小学校体力増進計画」楽しんで体を動かし、体力向上と運動意欲を高める	5万円	19	江津市立 桜江中学校	体育科の授業改善を図るための備品の整備事業:教材備品の充実により円滑な授業を実施する	5万円
8	大田市立 志学小学校	子どもの体力向上推進事業体力作りを継続実施し、持久力や平衡性、巧緻性を高める	5万円	20	邑南町立 石見中学校	総合的な学習の時間で取り組む「邑南町をよりよくしていく提言」を考える機会を設ける	5万円
9	邑南町立 市木小学校	「えがおっていっしょだね」事業:人の役に立つ人間になりたいという意欲を育む	5万円	21	安来市立 井尻小学校	「ふるさと井尻の人・もの・ことにふれ、地域のよさを実感する事業」	5万円
10	邑南町立 日貫小学校	「ひとのぬくもりいっぱい」の学校図書館事業:図書館を開放し地域の方との交流を深める	5万円	22	出雲市立 佐田中学校	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくり:言語活動の充実を図る	5万円
11	美郷町立 大和中学校	大和探求(ふるさとコース)と神楽伝承(神楽コース)2班に分かれ探求活動を行う	5万円	23	安来市立 赤屋小学校	郷土芸能の伝承・発表活動を通し、ふるさとに誇りと愛着をもつ子を育成する	5万円
12	邑南町立 口羽小学校	複式学級の授業改善を図る教育環境整備事業(間接指導における教材整備)	5万円				

令和元年度 教育文化事業(助成金給付)給付団体一覧

No.	給付団体名	研究・実践内容	給付額
1	島根県人権教育研究協議会	第15回島根県人権教育研究大会	50万円
2	公益社団法人 日本弘道会島根支会	弘道フォーラム2019 in 島根	20万円

令和元年度 教育文化事業(学校教育活動助成)給付団体一覧

No.	給付団体名	研究・実践内容	給付額
1	島根県算数・数学教育研究会	しまね数リピック	参加賞、優秀賞(メダル等) 433,512円分
2	島根県中学校技術・家庭科研究会	島根県中学生創造ものづくり教育フェア	参加賞、副賞、材料代 150,000円分
3	島根県小学校長会	児童の安全・安心のための環境づくり	メガホン(拡声器) 1,068,120円分

会員の皆様がより健康で豊かな生活を営むための事業も行っています。

教弘保険加入者に対する福祉事業等は下記の通りです。

なお、ここでいう「会員」とは教弘保険6口未満の加入者、「正会員」とは教弘保険6口以上の加入者をいい、(公財)日教弘の趣旨に賛同して会員になられたいわゆる「賛同会員」の方は含みません。

下表の(1)～(5)及び(7)の内①、②については、**事実が発生してから2年以内に申請**してください。

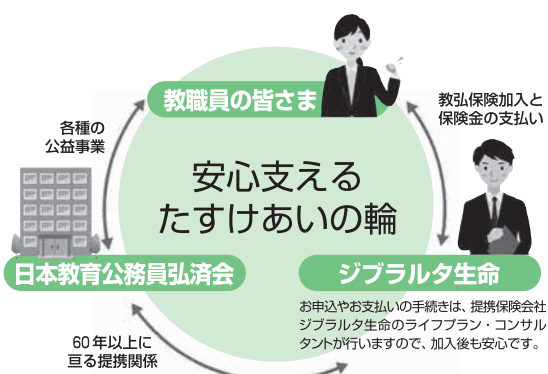
なお、この他に、(公財)日教弘本部が実施する福祉事業(賛同会員の方も含みます。)があります。

詳しくは、令和元年度島根教弘会報 vol. 1 をご覧ください。

項目	内 容	受給対象		平成30年度実績	
		正会員	会員	件数	金額
(1)傷病見舞金	傷病で長期に継続休暇・休職をした場合に給付 ○ランクにより対象休暇日数・見舞金は異なる	○	○	9	94,000
(2)災害見舞金	不慮の事故で財産に著しい損害を受けた場合に給付 ○損害により見舞金は異なる	○	○	1	12,000
(3)結婚祝金	結婚した場合、祝金2万円を贈呈 *一人1回	○		89	1,780,000
(4)出産祝金	出生の子ごとに1万円を贈呈 ○夫婦とも正会員の時は双方に給付 ○正会員の配偶者の出産も可	○		146	1,460,000
(5)弔慰金	新物故会員に弔慰金3万円をお供え	○		8	240,000
(6)宿泊施設利用補助	指定の宿泊施設補助 ○Bランク会員2,000円/泊、年間6泊まで Cランク会員3,000円/泊、年間6泊まで D・Eランク会員3,000円/泊、年間9泊まで ○島根県教育会館の宿泊補助500円/泊	○		276	726,000
				882	441,000
(7)その他 (株)島根教弘が行う記念品贈呈等	①継続記念品(継続10年・継続20年)②満口・増口記念品(40口・70口・100口)③新規正会員加入記念品④新規採用新規加入記念品⑤ユース教弘移行記念品⑥正会員記念品	○		-	-

参考：福祉事業サービス基準(島根支部)

ランク	加入内容(付属保険は含まない)	
A 会員	教弘保険(No52) 新教弘保険A型、B型、S型	単独又は通算して 6口未満
B 正会員	教弘保険(No52)、ユース教弘保険 新教弘保険A型、B型、S型 新教弘保険K型(追加集団)	単独又は通算して 6口以上16口未満 1口～2口
C 正会員	教弘保険(No52)、ユース教弘保険 新教弘保険A型、B型、S型 新教弘保険K型(追加集団)	単独又は通算して 16口以上26口未満 3口
D 正会員	教弘保険(No52)、ユース教弘保険 新教弘保険A型、B型、S型 新教弘保険K型(追加集団)	単独又は通算して 26口以上46口未満 4口以上
E 正会員	教弘保険(No52)、ユース教弘保険 新教弘保険A型、B型、S型 新教弘保険K型(追加集団)	単独又は通算して 46口以上 5口以上



新会員からの声

「二期一会」

出雲市立第三中学校

錦織 実

島根県の新規採用中学校教諭として勤務を始めてから、およそ半年が経ちました。教員生活の始まりに大きな希望と不安を抱え、子どもたちと出会った春のことが懐かしく思い出されます。

私には、この半年間の中で、自分のこれまでの人生を振り返る機会が多くありました。その中で感じたことは、人と人との出会いがどれほど大切かということです。働き始めてから、力不足で何も分からない自分の無力さを実感し、これまで多くの方との出会いに恵まれ、支えられてきて「今の自分」があるのだと気付かされました。これまで出会ったすべての方たちのおかげで、教師として子どもたちの前に立つことができています。

現在も、新任者の私を育てようとしてくださるあたたかい先生方や、元気をくれる子どもたち、協力してくださる保護者の方に出会い支えられ、教師として学ぶことができています。どんな時も周りの方への感謝の気持ちを忘れることなく、目の前の子どもたちと向き合っていきたいです。

この度、教育公務員弘済会に加入しました。周りの方の勧めもあり、安心して教員生活を送るために、経済的支えが必要だと考えたからです。ライフプラン・コンサルタン卜の方も親身になって話をしてくださり、安心して働くことができています。これまでは家族に支えられてきましたが、今後は一社会人として自立し、自分が周りの方を支えられる存在になっていこうと思います。

いつまでも初心を忘れず、二期一会の出会いに感謝して、教師として学び続けていきます。

ご退職予定の皆様へ

教弘保険の満期は65歳です。満期まで是非ご継続いただき
「島根教弘友の会」に正会員としてご加入ください。

ご退職後の教弘保険について

教弘保険の満期は65歳です。ただし、退職されますと保険料の支払い方法が変わり、給与の源泉徴収から金融機関口座のお支払いに変わります。また、65歳までの一括払いにされますと、前納割引があります。

65歳の満期後の教弘保険について

新教弘保険K型に加入できます。この場合、健康状態のいかんにかかわらず、既加入の保険金額の範囲内で加入でき、80歳まで継続できます。ただし、友の会会員資格は75歳までです。

ご退職後の正会員の特典について

- ・定年退職の方は、宿泊施設補助、弔慰金、会報のお届け、継続記念品・正会員記念品の贈呈を継続します。また、友の会正会員に移行しますと、結婚・出産祝金、傷病見舞金などはなくなりますが、新たに友の会正会員入会記念品、人間ドック受診補助、友の会支部総会への出席、「研修と親睦の旅」への参加が加わります。
- ・定年前辞職の方は、満60歳を迎えられた年の年度末までは現職会員の資格が継続します。その後、友の会会員となり上記の特典があります。

教弘保険の加入資格について

教弘保険は、満60歳6ヵ月までの現職中しか加入できません。間もなく定年を迎えられる方は、ご加入をご検討ください。

ご退職後も 教弘保険で

教弘保険の手続きは、ジブラルタ生命のLCにお問い合わせください。





共済事業 (提携保険事業)

「教弘保険」は教職員だけが加入でき、しかも低廉な保険料で大きな保障があります。真に教職員の福利を目的とした生命保険です。

すべての教職員の皆様へ

ご自身・ご家族の病気・怪我に要する医療・介護の費用、さらに万一の場合への備えをどうするか。また一方で、子供の教育資金、住宅資金、老後資金…etc

生命保険はこのようなリスクを経済的にカバーする手段のひとつです。下記のライフサイクルを基に「LCサービス」を使って必要保障額を算出し、ご自身・ご家族の将来への備えを考えてみましょう。

<p>教員として就職、そして結婚。死亡保障とともに不慮の事故に対応する保障(高度障害等)を考えましょう。</p> 	<p>子供が生まれ家族への責任が重くなります。子供への教育資金、住宅購入資金等を考え始めるこの年代は必要保障額が大きくなります。</p> 	<p>教育・住宅資金等30代の時より更に資金が必要。加齢に伴い医療保障の充実を考えなければなりません。その他にも老後資金についてもそろそろ準備を始めましょう。</p> 	<p>子供の教育資金がピークを迎え、老後資金準備も重要な年代です。加齢に伴う健康不安から、医療保障の必要性も高まり、夫婦どちらかの親の介護に切り進む場合もあります。</p> 
--	--	--	--

20代	30代	40代	50代
<p>加入例 22歳</p> <p>死亡保険金 … 3,000万円 災害割増特約 … 900万円</p> <p>34歳以下の方に ユース教弘保険 (災害割増特約付集団契約特約付勤労保険) 月払保険料 5,823円</p>	<p>加入例 37歳</p> <p>死亡保険金 … 3,000万円</p> <p>35歳以上の方に 新教弘保険A型 (集団契約特約付勤労保険) 月払保険料 10,530円</p>		<p>80歳まで継続できます</p> <p>新教弘保険 K型 5年毎更新 (集団契約特約付勤労保険) ※保険料は年齢別・男女別によって異なります。 ※保険料は更新時年齢により異なります。</p>

22歳加入 ——— 保険料払込期間(15年間) ———→ 37歳加入 ——— 保険料払込期間(65歳まで) ———→ 65歳加入

※ユース教弘の保障期間は加入年齢によって異なります。

※ご契約にあたっては、必ず共済事業(提携保険事業)提携会社ジブラルタ生命保険株のLC(ライフプラン・コンサルタント)にお問い合わせの上、保険設計書(契約概要)及び「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。上記の内容は2019年10月末日現在の概要を示したものです。

損害保険事業

2019年度加入のご案内

公益財団法人 日本教育公務員弘済会
www.nikyoko.or.jp
教弘まなびやスーパープラン 検索



教弘まなびやスーパープラン

2019年8月1日始期(保険期間1年) (2019年8月1日午後4時~2020年8月1日午後4時) **自動更新**

募集期間 2019年6月3日(月)~7月19日(金)
中途加入の補償期間 加入依頼日の属する月の翌月1日午前0時~2020年8月1日午後4時

<p>教職員賠償責任保険 + 団体総合生活保険(まなびや)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>□授業中に生徒がケガ、先生個人に損害賠償請求。</p> <p>□生徒を注意したら人格権の侵害と訴訟を起こされる。</p> <p>□一方的にパワハラだと訴えられる。</p> <p>□自転車で他人にケガをする。</p> <p>□部活動指導中にケガをする。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;"> <p>団体割引・損害率による割引あわせて</p> <p>約44%割引</p> <p>※保険料は補償項目ごとに施設処理を行っております。また、団体割引は、団体割引の適用となります。※上記割引率は、団体総合生活保険(まなびや)に適用となります。</p> </div> </div> <p>加入者資格</p> <p>公益財団法人 日本教育公務員弘済会の会員で、以下に該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> 公立学校の教職員 国立学校および私立学校の教職員 教育委員会の職員 教職員団体の役員及び職員 日教弘および日教弘の本部および各県の職員 1.~5.の退職者 <p>被保険者になれる方の範囲</p> <p>公益財団法人 日本教育公務員弘済会の会員で、以下に該当する方</p> <ol style="list-style-type: none"> 公立学校の教職員 国立学校および私立学校の教職員 <p>〔ご注釈〕教育委員会・教育事務所の職員の方は、被保険者になりません。</p> <p>※「教職員」とは、学校教育法に規定する学校の校長および教員ならびに部活動を指導する教育関係の職員等</p>	<p>教職員賠償責任保険 新えられた!</p> <p>教職員業務の遂行に起因した 損害賠償請求に!</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職員個人の争訟費用(弁護士費用等)および損害賠償金を補償! 支払 1請求・保険期間中/1億円 2 初年度加入日より前に行った行為に起因する請求も補償! (教職員賠償責任保険) ※ただし、各保険期間の初日より前に発生していた請求および保険期間の初日において請求されるおそれがある状況を被保険者が知っていた場合はお支払対象外です。 3 教職員をやめた後になされた請求についても5年間補償! (教職員賠償責任保険) 4 初期対応費用も補償! (身体障害を被った被害者への見舞金等) <p>団体総合生活保険(まなびや) ケガをしたさえた!</p> <p>教育業務遂行中、日常生活の 事故やトラブルに!</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご本人のケガを入院・通院1日目から補償します。 ※入院(治療)または通院(またはこれらによる療養)によるケガについても補償します。 学校行事等のケガは倍額補償! (特定学校行事・宿泊旅行中・通勤途上等) 2 ご本人およびご家族の日常生活での賠償事故も補償! 支払 国内/無制限、国外/1億円 3 生徒の見舞い費用も補償! (生徒がケガにより死亡または15日以上継続して入院した場合の入院見舞金、弔慰金等) 4 携行品損害・救援者費用等も補償! <p>傷害事故については他の生命保険・共済の給付に関係なく、保険金をお支払いたします。 教職員専用の充実した補償内容です。 今すぐ、お電話を!</p>
--	--

このご案内は、「教職員賠償責任保険」「団体総合生活保険(まなびや)」の概要について説明したものです。保険の内容は、パンフレットをご覧ください。詳細は団体が保有する保険約款によりますが、ご不明な点がありましたら、代理店または引受保険会社 東京海上日動火災保険㈱におたずねください。ご加入に際しては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

2019年3月作成 募集文書番号18-T09379

認め合い、高め合い、主体的に行動できる生徒の育成

～自己有用感の育成をめざした取組を通して～

奥出雲町立横田中学校

◆ 研究の方向性

「認め合い、高め合い、主体的に行動できる生徒」を育成するために、「自己有用感の育成」をめざし、授業や行事などの特別活動はもちろん、地域の資源も生かしながら、全教育活動をあげた取組を進めた。「授業づくり」「基盤づくり」「地域連携」の3つを核に、取組を行った。

研究実践

① 授業づくり

「指導者の肯定的な評価言を取り入れること」と「小集団学習（ペア学習、グループ学習）における交流や相互評価」を積極的に取り入れた授業づくりを行った。意見は違っても互いに意見は尊重させる、全員に伝わる大きな声で話す、話し方を意識して話す、発表者の方を向いて聞く、他の人の考えを受け入れる気持ちで聞くことを日常的に指導した。



② 基盤づくり

「一人一役で自主性・主体性の育成をめざすとともに、異学年集団の交流のある特別活動の充実」を大切にし、行事において良いところを見つけを行うなど、振り返り活動の工夫・改善を図った。また、「人間関係づくりプログラムを積極的に取り入れた学年・学級集団づくり」を進めた。

③ 地域連携

「異校種等との交流活動、地域人材の活用」を積極的に行った。修学旅行では、毎年大阪府守口市立さつき学園（夜間中学校）を訪問し、学ぶ機会をわれたことや学習ができる喜びなどについて直接話を聞き、学習権に対する認識を深めるとともに、今自分たちが学べることの幸せを実感する場となっている。また、1年間での地域の方との各種の交流活動は約40回となり、生徒はのべ300名の方と接する機会を持つことができた。



◆ 成果と考察

毎年生徒に行ったアンケートからは「自分のことが好きである」の設問に肯定的回答が増加するなど自己有用感の育成に成果が見られた。「自分は人が困ったときには、進んで助ける」の肯定的回答も増加するなど「認め合い、高め合い、主体的に行動できる生徒の育成」にも効果があったことが認められた。これは、自己有用感をキーワードとした全教職員による全教育活動を通じた取組の成果が、着実に現れたものだと考えられる。今後も地域や異校種との連携を図りながら継続的な取組を行っていきたい。

島根教弘会報 令和元年度 第2号

発行日 令和元年12月10日

発行兼編集 〒690-0887 島根県松江市殿町33番地
公益財団法人 日本教育公務員弘済会島根支部
株式会社 島根教弘

責任者 伊藤由紀夫

TEL 0852-24-1059

FAX 0852-31-6089

TEL 0852-24-7750

印刷・製本 明和印刷株式会社